

(別紙3)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100147		
法人名	株式会社ハーティ盛岡		
事業所名	グループホーム浅岸静福園(東棟)		
所在地	〒020-0801 岩手県浅岸字橋場16-2		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果市町村受理日	平成23年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100147&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年4月開所となり、日が浅いながらも「全てのご入居者様を職員の両親・祖父母と思う優しい介護」を理念に掲げ、日々の生活を共に支え合っているという意識のもとケアに取り組んでおります。看護師常勤によりご入居者様の健康管理に努めております。又、AEDを設置し、緊急時に備えております。職員の資質向上の為、各種研修への積極的な参加、交換研修の実施、様々な資格取得への奨励支援等を行い、よりよいケアにつながるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成20年8月、株式会社ハーティ盛岡を設立し、10月には浅岸地区街づくり委員会へグループホームの建設及び平成22年4月に営業開始予定の旨を説明している。同年4月1日2名の入居者で運営開始しており、8月には2ユニット18名定員に達している。隣は幼稚園、園の後背には地域の守り神である神社がある平屋建て2ユニットのグループホームは、広々として入居者はゆったりと過ごしている。代表者は前職を退職後に、社会福祉士の資格を取得している。また、福祉に関わる友人・知人に助けられ、職員の質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境での自立支援、安心と信頼の提供、地域交流も取り入れるように努力しながら「全てのご入居者様を、職員の両親・祖父母と思う優しい介護」の理念を念頭に日々のケアに取り組んでおります。	「全ての入居者様を職員の両親、祖父母と思う優しい介護」を理念に、人生の先輩の尊厳を守り、慈しみ、楽しい生活を送っていただくよう朝・夕のミーティングにおいても話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭り等への参加、又ホーム内における各種行事や推進運営会議にて地域の皆様との交流を図る努力をしております。	この地区に長く住まれている方と5、6年の居住の方との地域との関わりのギャップに戸惑っているが、ホームで行う夏祭り、鹿踊り(園内で見学)はチラシを配り、太鼓の音で集まっていた。また、声を掛けて頂くなど関係を築くための取り組みを行っている。	町内会長、運営推進委員の方々の協力を頂くなど、折に触れてグループホームの啓蒙活動に努めていって頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所後1年に満たないこともあり、事業所の実践を積み上げている段階にあり、今後地域の方々を招いてのお茶のみ会等の開催を検討しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、地域交流センター、自治会代表、家族会代表等少人数ながら、貴重なご意見を頂戴し、ケアに活かしております。	街づくり推進委員会、家族会代表、地域包括支援センターの方々から方向性等アドバイスを頂いている。「浅岸静福園通信」を町内、班毎に回覧板に付けて廻して頂き、事業所の周知に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご家族からの相談やその他の課題解決に向け、毎月直接の訪問を含め、その都度連絡を密に取り、協力関係の構築に努めております。	介護高齢福祉課へ毎月出向き、調査物の回答等を話しながら関係を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム目前に主要地方道が通り、交通量が多く、自由にホーム外に出ることは交通事故等に繋がる危険性が高い為、玄関内側をカード式の自動ドアとしています。外出希望がある際は、その都度対応しております。身体拘束については資料等で理解に努め、ケアの実践に努めております。	事業所の前は交通量が多いので、事業所の駐車場側に、道路との仕切りのフェンスを設置した。帰宅願望の強い方には、職員と共に近所のスーパーへ出かけたり、幼稚園の子供達の様子を見る等、気持ちが落ち着く対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉や態度によるものも含めて虐待はありません。資料等でその理解が図れるよう努めております。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム浅岸静福園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自資料等で学ぶ機会を持っていますが、活用するケースは現状ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や料金改定時には事前に連絡、説明を行い、ご理解・ご納得頂いた上で手続きを進めていくよう努めております。又、その後も不明な点等があれば、いつでもお話頂けるようその都度お伝えしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者やご家族が意見を出してもらえよう関係作りに努めることを前提とし、意見箱の設置やご家族面会時の情報交換により、ご希望を頂戴し、できる限り運営に反映させるよう努力しております。	家族、親戚の方が面会に来てくださった時は、管理者、職員とも話し合い、意見を聞くような配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は極力毎朝の申し送りに出席して職員の意見を聞きながら情報交換、伝達を行い、その機会としております。	ユニットごとに記入したグループホーム日誌、入居者各人の生活日誌を基本に朝のミーティングにて引継ぎ、情報交換を行っている。	諸伝達事項の周知や職員の意見を聴取反映させる場として、ユニット毎か全員参加の月例全体会議等の開催を検討して頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(兼施設長)は介護シフトには入っていませんが、極力毎日日勤をしながら職員の勤務状態を把握しております。各職員の勤務状態を今後昇給等に反映致したいと思っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される各種研修へ職務内で参加できるよう配慮を行っております。又、職員各自が目標を立て、資格取得の為、試験等に臨んでいます。(受験料等の補助を実施しております。)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や定例会への参加により交流、情報交換の場を設け、ホーム内、朝の申し送り等の時間を活用し、情報伝達することで、日々のサービスの向上へとつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時も含めて、その後もご本人とご家族がどのようなことで困っているのか、それを解決するために何をどの程度必要としているのか密なコミュニケーションを図り、関係作りに努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の中で、ご家族様それぞれの不安に思っておられる事やご要望等を傾聴し、関係作りに努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向を伺った上で「その時」必要なものを検討し、適切なサービス利用への対応を行っております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様の出来ることの把握に努めその力を生活の中で発揮できるように支援し共に助け合う関係を築く努力をしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や行事の際、又は電話や毎月広報(個人だより)にてご入居者様の情報を共有し、ご家族様と共にご本人様を支援していく関係作りに努めております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙やお電話にてこれまでの関係が引き続き図れるよう支援しております。又、ご入居者の方へ遠方からのお客様が来園される場合も多く、その時間を楽しく過ごしていただけるよう努力しております。	遠方からの面会者も多く、各入居者の個室で楽しく話している様子が見られる。出身地からの知人友人も来園してくれる。入居したことで今までの関係が途切れないよう手紙や電話の支援、また居室や談話コーナーでゆっくり面会できるような支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することがないように、耳の遠いや話が苦手な方には職員が常に間に入りお互いがよりよい関係を築けるように支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方のご家族様等とは電話にてその後の様子をお聞きし、病状回復の把握及び再入所希望の有無等を聴取しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望などを上手く伝えられない方は、日々の会話や行動を注意深く観察してその内容から希望や意向を汲み取る努力をしております。ご家族にも面会時などに話しを聞いて職員で情報共有し利用者本位のケアができるように努めています。	入居者の気持ちに寄り添って、買物や祭りを見物に出かけている。ドライブも楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後の生活等ご家族面会時の情報交換を通し、これまでの生活歴等の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態等毎朝の申し送りやご入居者様個人の連絡ノートを活用し、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ショートカンファレンスにて評価を行う他、ご家族の意見や要望を伺い、3か月毎にケース検討会を開催し、職員間で協議した上で介護計画を作成しております。	本人やご家族面会時に希望を伺い、介護計画に反映させるようにしている。毎月評価を行い、3ヶ月毎にケース検討会を開催し、介護計画を作成している。毎月のカンファレンスで行う評価は長期、短期目標に沿って話し合わせ、文章により表現されている。	カンファレンスで行われている評価は文章形式で細やかではあるが、短期、長期目標に対する評価はプランの中で分かりやすく記入し、次のプランに反映しやすい様式等を検討されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等を時系列の記録と介護計画に沿った評価の記録に記入し、ケアのあり方や計画の見直しに活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム本来の共同で営む日常生活の輪に入れない程度の方もおられるので画一的にならないように個々の状況に合った支援を心がけております。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム浅岸静福園

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において地域の自治会長や街づくり推進会長の方に参加して頂き、安全で豊かな暮らしを送れるよう努めております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は入居者様個々のかかりつけ医への適切な医療が受けられるよう支援しています。又、ご家族の協力も得ながら、受診の支援を行っております。	事業所として協力医との契約があるが、それぞれ従前のかかりつけ医で受診している方が大半である。歯科医協力医には毎月診てもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の入居者様の体調変化等をその都度看護師に報告し、指示を仰ぎ適切な支援へとつなげています。通院時の対応は看護師が行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された方が2名いらっしゃいました。その都度病院関係者と情報交換や相談を行い、関係づくりを行っております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時のご家族様へのご説明ではご理解を頂いておりますが、まだ重度化の事例はありません。ご家族への配慮を行いながら入院時の場合対応に努めて参ります。	職員に看護師がおり、看取りの対応を考えており、「重度化した場合の対応に係る指針」に本人・家族の強い希望がある場合等に看取りの対応をしていく考えを記している。入院対応になった例がある。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援のあり方、マニュアルも含め職員と共に更に検討を加え、関係機関との連携、情報交換出来る体制の構築に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの導入時の説明や救命講習の伝達研修等を通じて研修はしておりますが、今後応急手当や初期対応の訓練も行って参ります。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において地域の方との情報交換や通報訓練、避難訓練を実施しております。夜間を想定しての訓練については未実施ですので、今後早急に計画し、実施していきたいと思っております。	昨年5月と11月に、通報・避難訓練を行った。夜間訓練は、包括支援センターの指導を頂きながら早急に行う予定である。避難場所は浅岸消防コミュニティセンターとしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての敬意と尊厳の保持を念頭に言葉かけや対応に努めておりますが、時としてそれにそぐわない言葉使いや対応もみられることがあり、職員間でお互いに振り返りを行いながら適切な対応ができるよう努めております。	朝の申し送りで言葉遣いについて確認したり、短い言葉や乱暴な言葉遣いにならないように職員間で注意し合っている。ミーティングでも話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、おやつ等の時間以外はご本人の希望に沿いながら、ご本人のペースで過ごして頂けるよう努めております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様と接する時間を増やし生活スタイルの把握に努めながらご入居者様のペースで過ごせるよう努めています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択に関して、家族やご本人様の生活を尊重して生活歴の把握につとめ昔から着てきた愛着あるものを施設でも毎日ではありませんが着ていただいています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を多く取り入れた献立を考え、食事の下準備や盛り付けを行って頂いたり、食事後の食器拭き等々の片づけを一緒に行ったり、ご入居者様それぞれのレベルに応じた声掛けにより、場面設定を行っております。	週間献立は立てていない。食材は3日分ほど用意しているので、その日の当番職員が調理する。ユニット分担で行っており、1ユニットで主食調理等、もう一方のユニットでは副食を調理している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日に記録に残し、摂取が進まない場合は無理強いせず、その方の嗜好を考慮した食品を提供する等で補い、一日のトータルで摂取量を考えております。又、毎月体重測定を行い、食事の盛り付け量を調節しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携している歯科の往診とその先生による指導のもとに介護職員で利用者様の日々の状態の見極めをしながら毎食後実施しています。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム浅岸静福園

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンの把握に努めなるべくトイレで排泄していただくように支援しております。	リハビリパンツ利用の方が多い。夜間、ポータブルトイレの利用者が数名いる。排泄チェック表で利用者個々の排泄間隔を把握し、一人ひとりに合わせた排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックは毎日行い、看護師指示のもと個別に対応しております。又、毎日午前中に牛乳を提供する他、便秘気味の方には水分量を調整する等の対応を行っております。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調やその日の気分も考慮して無理なく入浴してもらうようにしております。	週2、3回、午前・午後・夜間と対応可能時間も広く設定されており、利用者の希望に沿って入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に出来る限り活動をして夜間は安眠できるように支援しています。眠れない方などいる時には、話し相手になるなどして不安を取り除く等の対応をしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な病院受診にて現在の状況を医師に伝えながら、薬の調整を図っております。服薬に関しては、看護師が管理を行っており、副作用等も各個人のお薬説明書を読んで理解に努めております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調や気分を考慮した上で、日課に合わせた掃除、洗濯、食事の準備や後片づけ等でその方の力を引き出せるよう支援しております。又、その時期に応じた行事を計画し、ご入居者様の気分転換が図れる機会を設けております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は近隣へ散歩等外出の機会を設けております。現在は風邪やインフルエンザ等の感染予防から外出を控えていますが、夏場は毎週1回ドライブの機会を設け、ご入居者の方から行き先を伺ったりと外出の機会を設けておりました。	散歩時に、近所の小公園へ行き、ブランコを楽しんだり、隣の幼稚園児の様子を微笑ましく見たりしている。ドライブは、高松の池、住吉神社、自宅めぐりとおやつを持って行き楽しんでいる。家族でお墓参りされた方もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム浅岸静福園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持、管理している方が限られているのが現状ではありますが、希望時には個別で買い物へ外出する等の支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を使用できる方はいませんが、ご希望時には職員介助のもと使用して頂き、ご家族様等とのやり取りができるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や壁面等に季節の植物や装飾を行い、季節感を取り入れる配慮を行っております。又状況に応じた環境整備(温度、湿度、照明等)に配慮しております。	スプリンクラー・AEDは設置済みである。穏やかな季節感の出る品を飾り付けている。新築の為、特に温度、湿度、照明に配慮がうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者が希望の場所で過ごせるよう居場所作りに配慮を行っております時としてその居場所を確保する為声を上げたりという場面も見受けられますが、職員が仲介に入り、相互にできるだけ気持ち良く過ごして頂けるよう努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等をご持参頂くと共に、ご本人様、ご家族様の意向、状況を考慮した上でパッドの位置等を変更し、安全にかつ居心地よく過ごして頂けるよう努めています。	整理タンス、ご家族やご自分の写真、椅子等持ち込まれている。安全面にも配慮しながら、居心地の良い居室になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かりやすいよう表示を行ったり、ご入居者様個々の動線、生活習慣に応じた環境整備を行い、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫しております。		